

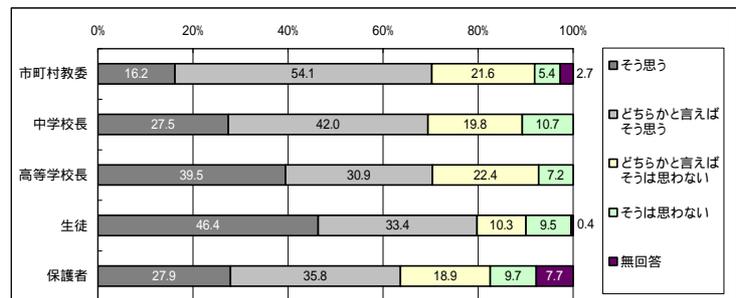
入学者選抜制度についてのアンケート及び調査の結果概要

神奈川県公立高校入学者選抜についてのアンケート

1 選抜制度の改善について

(1) 学力検査を伴わない前期選抜の実施について

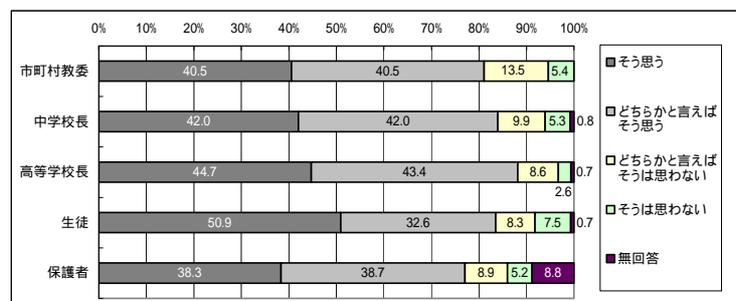
前期選抜の実施についてよいことだと思うかについては、そう思う、どちらかといえばそう思うという回答が多く、前期選抜設定の趣旨が肯定的に受け止められている。



前期選抜の募集人員の割合が各高校で設定できるようにしたことについては、市町村教委 94.4%、中学校校長 82.4%、高等学校校長 94.0%、生徒 84.4%、保護者 76.4% が肯定的に捉えている。

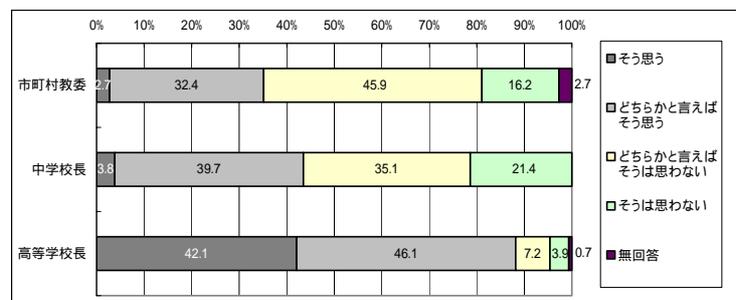
(2) 前期選抜の検査内容について

前期選抜の検査内容が各学校の特色に応じて面接及び必要に応じて学校が実施する検査となっていることについて、よいことだと思うかについては、肯定的な受け止めが高い割合となっている。



(3) 前期選抜における総合的選考について

前期選抜での総合的選考がその趣旨を生かした選考基準による選抜となっているかについては、市町村教委と中学校長は約6割が否定的な回答となっているのに対し、高等学校長においては肯定的な回答が8割を超えている。

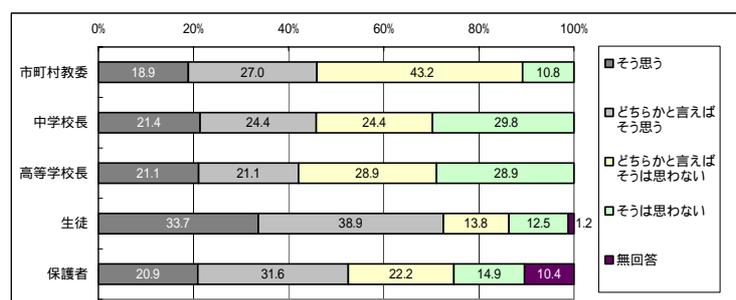


(4) 後期選抜における調査書の扱いについて

一般の全日制普通科高校の後期選抜の第1次選考での数値Cを算出する際、調査書と学力検査の比率を各高校が特色に応じて一定の範囲で決められるようになっていることについては、肯定的な回答が、市町村教委、中学校長、高等学校長、生徒及び保護者のすべてにおいて、8割近くあるいは、それ以上となっている。

(5) 定時制の課程の選抜日程について

全日制の課程と定時制の課程の選抜を同一日程で実施していることについて、市町村教委、中学校長及び高等学校長ともに、否定的な回答が5割を超えているが、肯定的な回答も4割を超えている。また、生徒では7割以上が肯定的な回答だが、保護者では5割程度にとどまっている。



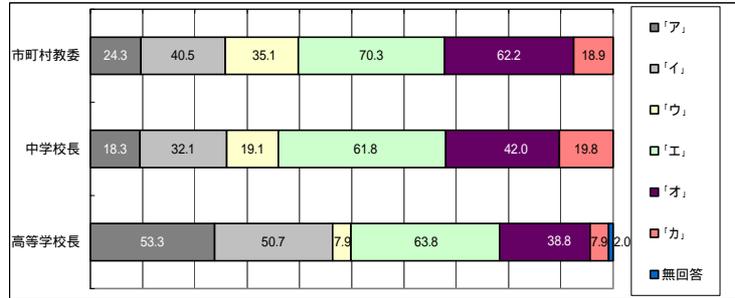
2 絶対評価の活用について

(1) 観点別評価の活用について

観点別評価を活用できることはよいことだと思うかについては、肯定的な回答が市町村教委、高等学校長ともに6割前後となっている。一方、中学校長では否定的な回答が51.1%と肯定的な回答の48.1%を若干上回っている。

(2) 絶対評価の精度を高める取組について

絶対評価の精度を高めるために今後実施した方がよいと思われる取組について複数回答で聞いているが、「統一的な客観テストとの比較による検証」を市町村教委、中学校長及び高等学校長ともに6割以上が挙げている。



右グラフの凡例

ア：各中学校の評価分布の公表
 イ：評価方法の統一化
 ウ：評価資料集の改訂
 エ：統一的な客観テストとの比較による検証
 オ：教員向け評価方法等についての研修会
 カ：その他

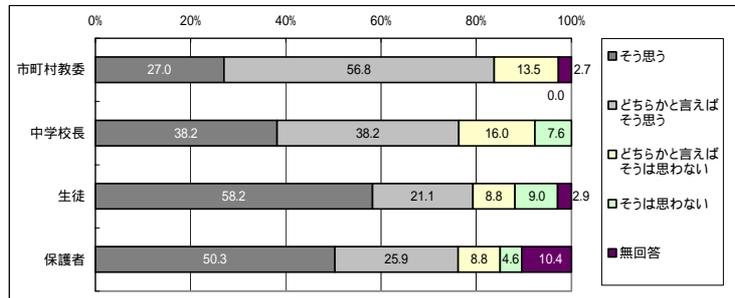
(3) 入学者選抜における活用について

絶対評価の今後の活用について複数回答で聞いているが、「前期選抜における学習の記録の活用割合の減少」や「普通科一般コースの後期選抜第1次選考における学習の記録と学力検査の結果との比率の拡大」を市町村教委、中学校長及び高等学校長の三者ともに比較的多く挙げている。

3 通学区域の撤廃について

(1) 学区撤廃の是非について

学区撤廃についてよかったと思うかということについて、市町村教委、中学校長、高等学校長、生徒及び保護者とともに、そう思う、どちらかと言えばそう思うの肯定的な回答が8割前後になっている。



(2) 進路指導の充実について

学校選択幅が広がったことで、生徒の特性、興味・関心や進路希望などに応じた進路指導がより一層充実したと思うかということについて、市町村教委及び中学校長とともに、5割以上が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と回答している。

(3) 生徒の進路意識の高まりについて

各高校の特色などについて主体的に調べる、学校説明会に積極的に参加するなど、生徒・保護者の県立高校の進学に対する意欲が高まったということについて、市町村教委、中学校長、生徒及び保護者の全てで肯定的な回答が7割前後となった。

調査書の評点（学習の記録）と学力検査結果の相関について

合計点、各教科のいずれにおいても、概ね評点が高ければ（低ければ）学力検査の結果が高い（低い）という、正の相関が見られる結果となっている。

通学区域別志願状況の調査について

各地域の状況や交通機関の状況から、それぞれ地域ごとに状況は異なるが、交通の便がよい地域を中心に、旧学区外からの受検者数の割合が学区撤廃前の平成16年度より増加しているが、学区外からの受検者が50%を超えるようなところはなく、平均すると旧学区からの受検者の割合は、29.3%となっている。